

春の全国交通運動スタート式

「おこさず あわず 事故ゼロ」をスローガンとした春の全国交通安全運動(4月6日～15日)に合わせ、4月8日(月)、アストくにさき前広場でスタート式が開催されました。式には交通安全協会国東支部や国東市交通安全推進協議会の関係者など約100人が参加し、三河市長や衛藤浩二国東警察署長から、国東市から交通死亡事故をなくそうとあいさつがありました。式後、国東地区安全運転管理協議会や国東警察署の車両パレードが出発。期間中、市内各所で交通安全を呼びかける街頭啓発が行われました。



新中学1年生全員に 反射タスキをプレゼント

国東警察署と大分県交通安全協会国東支部は、市内の新中学1年生244人に反射タスキを贈りました。4月11日(木)、国東中学校(岐部準次校長)で行われた贈呈式には、入学したばかりの1年生98人が参加。衛藤浩二署長と馬場将郎支部長が生徒の代表4人に反射タスキを手渡しました。



財前拓時さんが「学校や部活動の帰りは必ず反射タスキをして、3年間大切な体を守ります」とお礼を述べ、全員でタスキをかけました。



富来浦では交通安全祈願祭

4月12日(金)、国東町富来浦にある地蔵菩薩で交通安全祈願祭が行われました。地元の塩屋区老人クラブ(佐野邦彦会長)の主催で毎年開催しており、この日は会員や地区住民など約60人が参加。文殊仙寺の秋吉文隆住職の読経に合わせ、無事故を祈願しました。佐野会長が、「これからも交通事故にあわないように気をつけましょう」とあいさつ。老人クラブのみなさんは毎月20日、地蔵菩薩前の交差点で街頭指導を行っています。



本田航空が大分空港に訓練所を開設

ヘリコプターや小型プロペラ機運航などの航空関連事業を展開する本田航空株式会社(本社:埼玉県・広瀬文郎代表取締役社長)が、大分空港内にパイロット養成のための訓練所(大分事業所)を開設することになりました。

大分事業所では、大手航空会社や大学機関からの委託をはじめ、会社独自の養成により、講習や小型プロペラ機による操縦訓練を6月1日から開始する予定です。従業員は11人程度、訓練生は年間で48人程度を予定しており、およそ半年間の訓練期間中は市内に居住することとしています。

3月27日(水)、県庁で広瀬勝貞知事と三河明史市長に立地表明書が渡され、青木賢治取締役が「諸々の条件を考慮した結果、大分空港に進出することになりました。今後は空の事業を通じて地域に貢献したいと思います」と話していました。

訓練生は市内に居住

